

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2020年1～3月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲33 となり、過去最大の下落幅となった。見通しは▲53 となり、東日本大震災後の水準まで低下する見込みとなっている。

経営上の問題点を見ると、11 期連続で「従業員の不足」が1 位となり、深刻な人手不足が続いている。続いて「需要の停滞」がほぼ同率で2 位となった。

新型コロナウイルスの影響により景気が大幅に下押しされ、厳しい状況にある。

2020 年1-3 月期の景況判断を「悪化」とした企業は37%で、前回調査(2019 年10-12 月期23%)より14 ポイント悪化した。「好転」とした企業は4%で前回調査(8%)より4 ポイント悪化した。景況判断 DI は▲33 となり、前回調査(▲15)より18 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2019 年10-12 月期に対して、

- ・売上高 DI は-20 で、31 ポイント悪化
- ・処理量 DI は-18 で、28 ポイント悪化
- ・営業利益 DI は-17 で、19 ポイント悪化
- ・資金繰り DI は-2 で、2 ポイント悪化
- ・借入難易度 DI は7 で、1 ポイント悪化
- ・設備投資 DI は-2 で、3 ポイント改善
- ・従業員数 DI は0 で、同水準
- ・契約単価 DI は、収集運搬が5 で、1 ポイント悪化

処分が8 で、3 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲53 となり、20 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で8.8%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で18.7%減となった。
- 経常利益率については、平均値が5.30%で前回調査(5.55%)より悪化した。
- 経営上の問題点は、「従業員の不足」19.9%(前回25.5%)が11 期連続で1 位となった。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

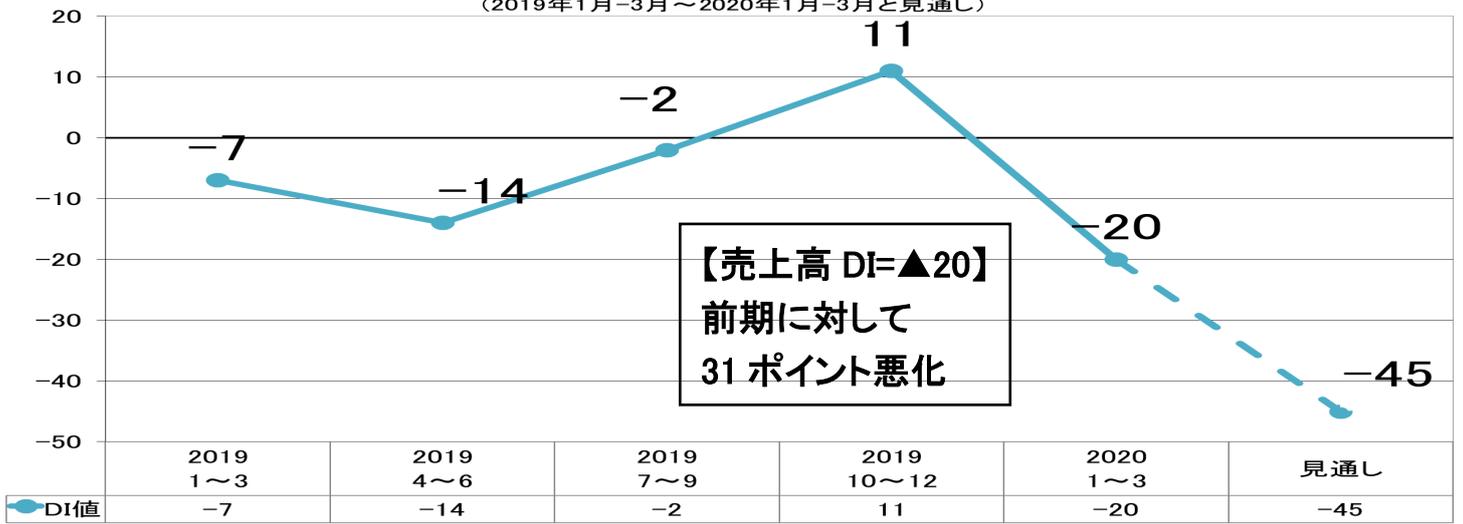
※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に

〔調査の要領〕

- 調査の対象:2008 年10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法:郵送によるアンケート
- 調査期間:令和2年4月6日～5月6日
- 回答企業数:338 社

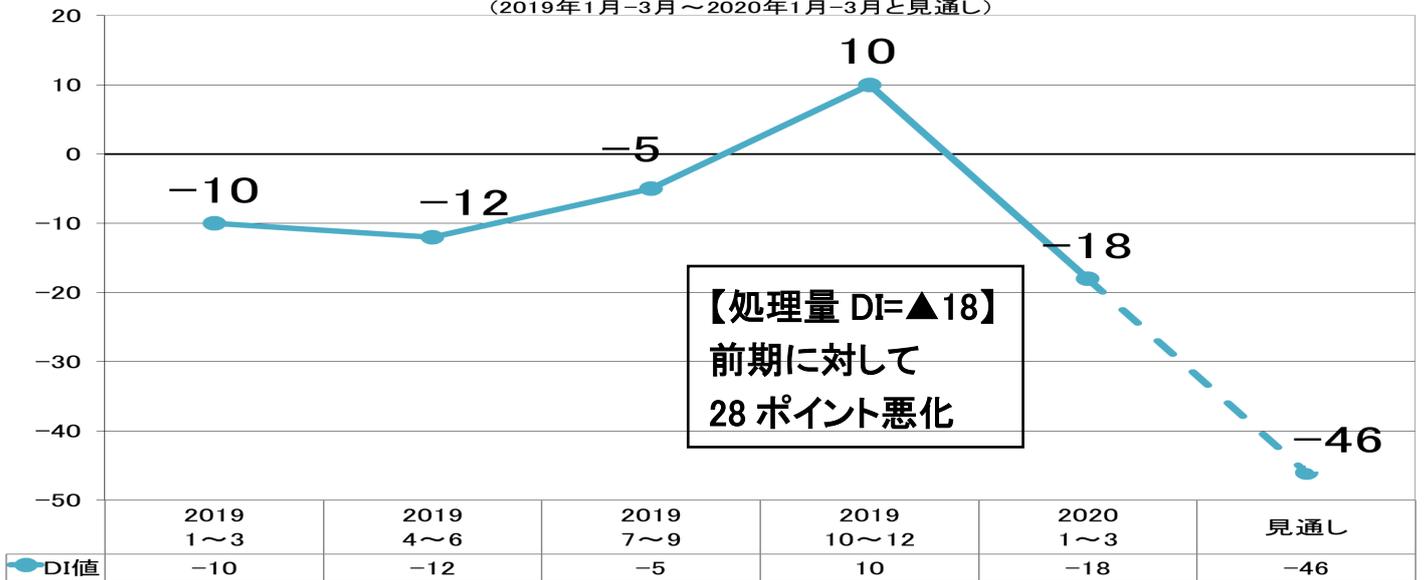
売上高DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



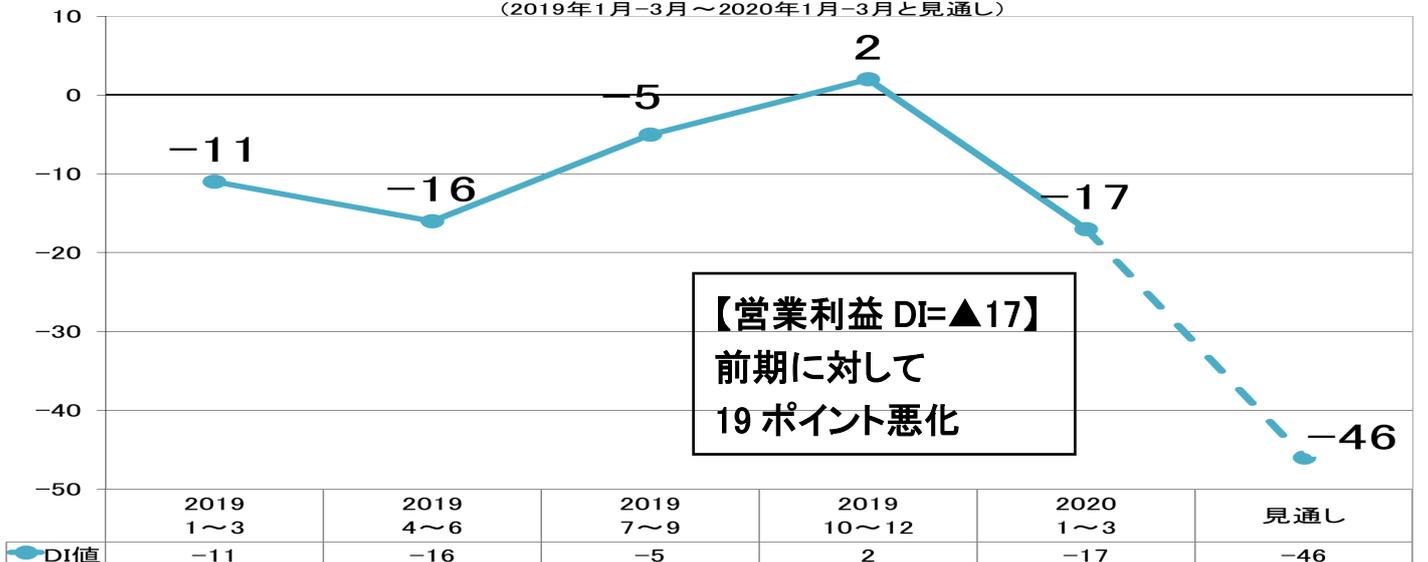
処理量DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



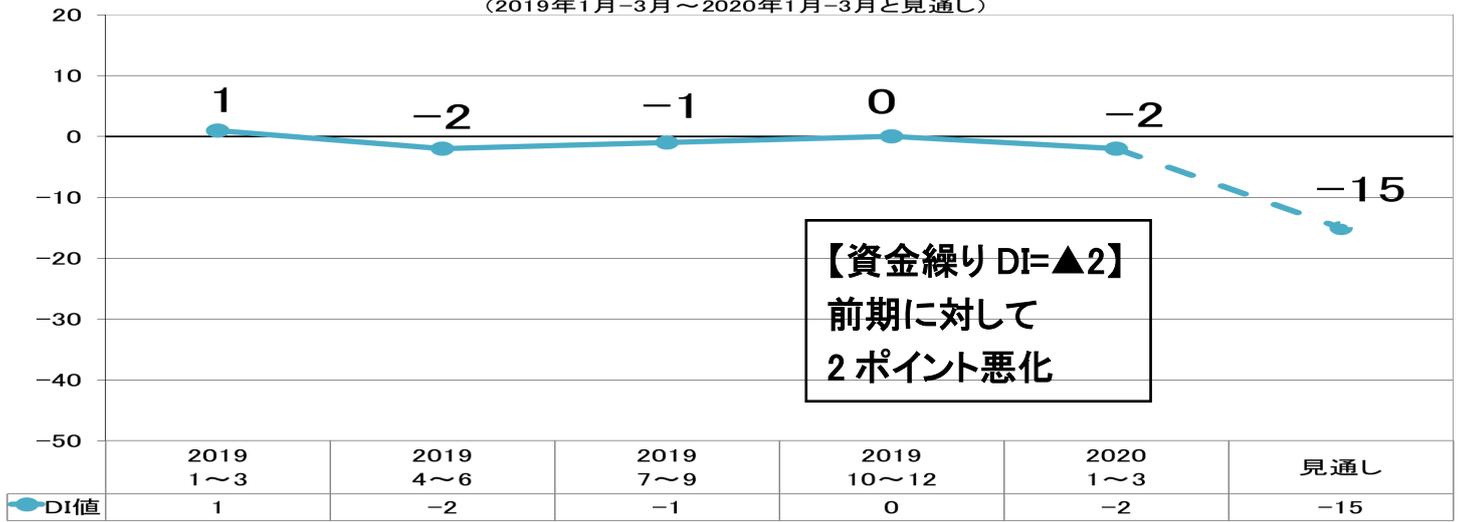
営業利益DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



資金繰りDI

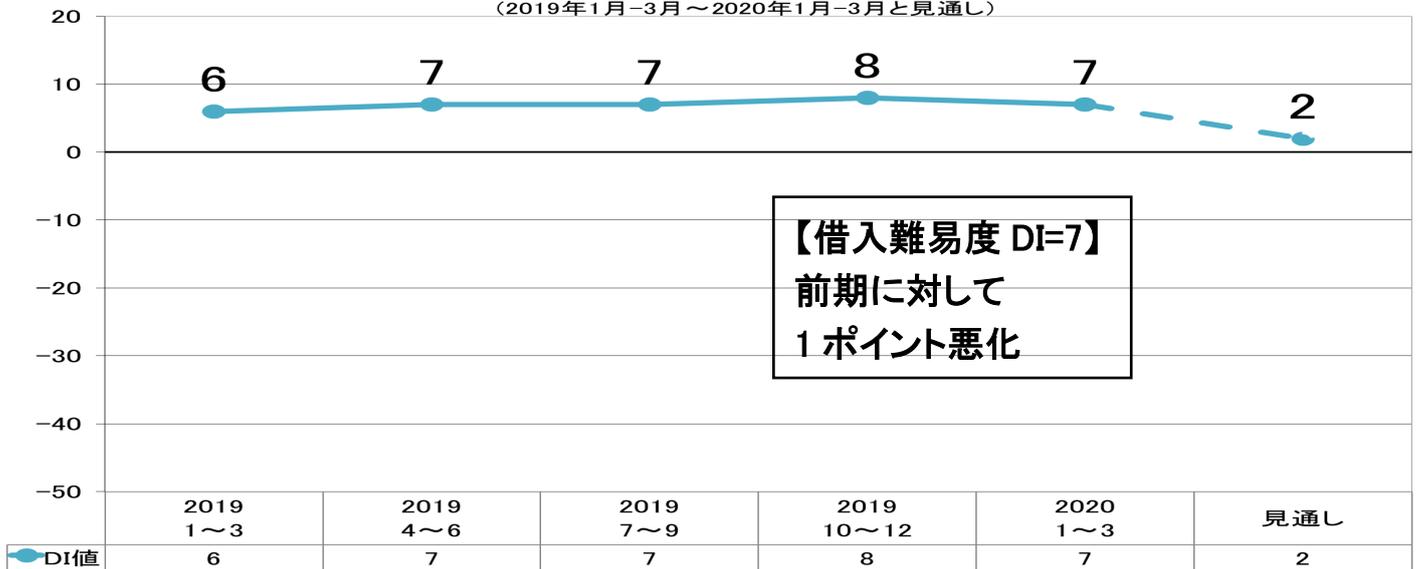
(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



【資金繰りDI=▲2】
前期に対して
2ポイント悪化

借入難易度DI

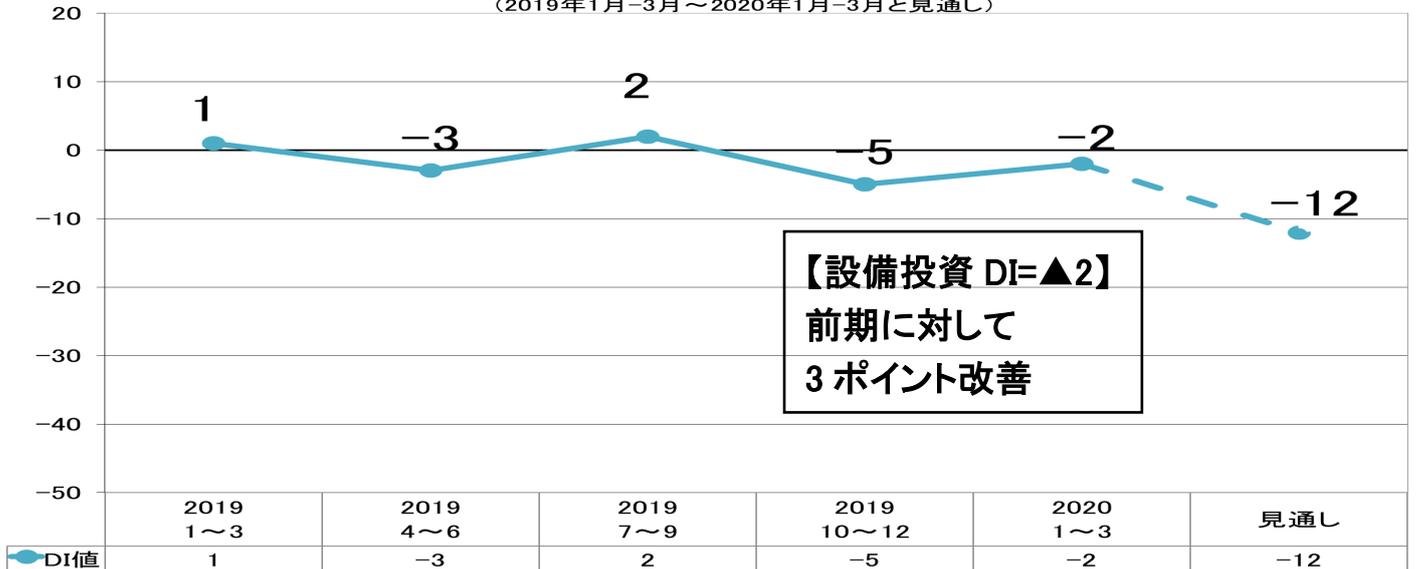
(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



【借入難易度DI=7】
前期に対して
1ポイント悪化

設備投資DI

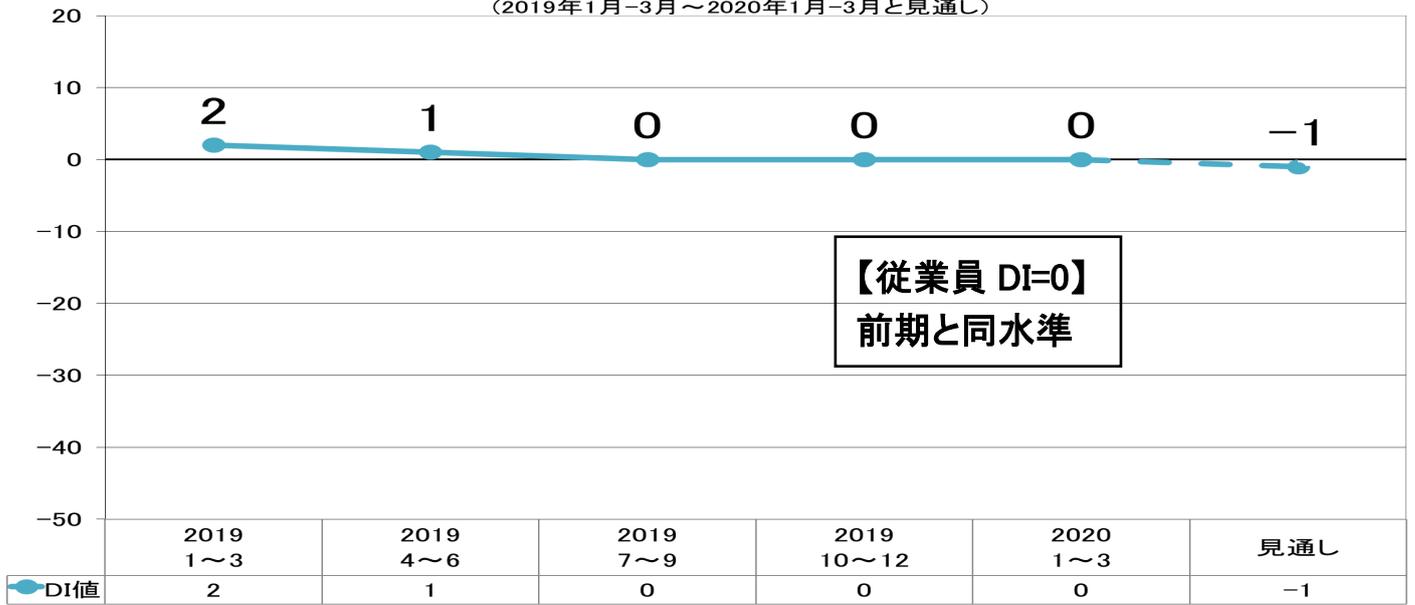
(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



【設備投資DI=▲2】
前期に対して
3ポイント改善

従業員数DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



【地域別レーダーチャート】

